

出会った人々Ⅲ

4月8日月曜日、この日は清明節の連休が明けて最初の登校日。教室に出向いたら、日本人の同世代かと思われる男性が座っていた。しかし、本当に日本人かはわからない。この学校には韓国・極東ロシア・モンゴルなど私達と顔立ちが変わらないアジア系の学生がいたので……。そんな中、金珉珠とこの人が会話している内容から、漸く日本人だとわかった。それが中嶋さん。私より年齢的には一世代上だったが、言うまでもなく話しやすい人だった。頭にテングロンハットをかぶる装いは、大変カッコ良かった。

この大学には度々パートタイムで来ているらしい。例の松岡さんとも知り合いで友人だった。熟年世代の留学生によくいるタイプなのか、中嶋さんも、現役時代の最後の数年間、大連で精密機械の工場を任されて過ごしていたそう。当然、この地に知り合いもいて、退職後もこうして中国語学習も兼ねてこちらに滞在することが多いそう。語学の方は、初級クラスにいる理由はないのではと思うくらい、老師たちにしばしば中国語で質問し、応答を続けていた。

人好きで、人と出会えば食事や酒に誘う人で、この人は我がクラスにも、日本人留学生仲間にも、何かと人をつなげる役目の存在となった。「宴会部長」を引き受けて、中嶋さんが来てから、急に学生同士の交わりが増えた。今は、中国のチベットなど秘境へのツアーを企画する旅行会社を立ち上げたそうだが、誘われたチョモランマへのトレッキングツアーも結局行かずじまいになっている。大学時代のクラスメートが同じような企画で私を誘っているが、共に健康にそこまで自信がないからで、行きたいのはやまやまだが遠慮している。

4月16日の火曜日朝、例の映像がはっきりしないテレビを着けたら、フランスからのビッグニュース。パリのノートルダム寺院が火炎に包まれていた。異国で見る異国の人間の感想だが、このニュースは大変衝撃的だった。工事の火が広がったそうだが、燃え方が本当に激しかった。

その足で教室へ。クラスにはフランスから来た二人の学生がいた。男性のロイチと、容貌はアジア系だが女学生のマティルダ。ロイチと目が合った瞬間、思わず大変なことになったねと、つぶやいた。それに「大変です」と片言の日本語で返すロイチは、アジアの言葉に大変興味があるらしく中国語だけでなく、日本語も習得中なのだそう。しかし、ノートルダムの火災にはそれほど関心がないらしい。二人はともに西フランスの地方都市にある大学からの留学生。パリから南西へ400kmも行った大西洋の港町ラ・ロシェルからやって来た。日本人で言えば、東京からでなく福岡からやって来た人に、浅草の浅草寺が大火だね

と言われても、ピンと来ないことと同じか？

それにしても、このラ・ロシェルの通称 **FLASH** と呼ばれる大学からの学生は、今回大挙して来て、教育学院ではちょっとした大勢力だった。ロイチとマティルダ達は、その **FLASH** の外国語の応用学科 (**Faculty of foreign applied language**) から派遣されて来た学生だった。授業の登校時と下校時、校舎の正面玄関には欧米人の集団が滞留することが多かったが、その多くがこの **FLASH** からの留学生だった。マノンと言う名の印象深いフランス人学生がいたが、彼女とは、宿舎の一画にあるハンバーガーショップであったことがある。大変なスモーカーで、その店が用意した半分野外の場所にたむろしていた。スモーカー達は、ここで紫煙をふかしていたのだ。彼女は欧米人だから当たり前だが、その眼にとっても強い印象を受けた。後に、大学近くの食堂でイタリア人のパウロと一緒に話を話しかけたことがあるが、こちらの拙いフランス語では話は続かず、二人とは英語でのやりとりとなった。

ところで、クラスメートのマティルダだが、アジア系の容貌は後からその理由がわかった。フランスとアジアと言えば、ヴェトナムとの歴史が深い。マティルダはそのヴェトナムから養子としてフランスにやって来たそう。立ち居振る舞いが上品で、しっかりした家庭で育った印象を受けた。話を聞く限り、アジアの香りは全く感じなかった。不思議な存在だった。